

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 「いのち・愛・人権」糸魚川展

4.5

- 2 トピックス 第59回優良公民館表彰 新潟市北地区公民館が受賞
- 3 視点 出雲崎妻入りの街並景観保全の推進
- 3 ひろば 生涯学習と公民館
- 6 実践記録シリーズ 町村合併「ふるさと学習館」を中核に
- 7 サークル交流 趣味と学習(柏崎市) / みんなが元気で楽しめるサークル活動(出雲崎町)
- 7 素顔拝見 佐藤 充さん(魚沼市) / 伊藤 慶恵さん(荒川町)



▲さあ、いろんな生き物を見つけるぞ！
(市民の森にて)

▼どんなところに魚がすんでいるのかな？みんなで探してみよう。
(刈谷田川にて)



「体験!! わんぱく塾」見附市中央公民館

表紙解説 好奇心いっぱい子ども達、見附の山や川の自然と向き合っている様々な体験・発見を楽しんでいます。

第59回優良公民館表彰

新潟市北地区公民館が受賞

優良公民館表彰を受賞しました

新潟市北地区公民館長 小林 幸一

当公民館が、現在地に地区館として開館してからの十一月で丁度満二十五年という節目の年に、思いがけない贈り物をいただきました。

地区住民と一緒に公民館事業を盛り上げてきた実績を評価されての「優良公民館 文部科学大臣表彰」という輝かしい受賞です。

当館職員と、随行をお願い



した当公民館運営審議会長で十月二十六日表彰式に参列

しましたが、当日は天候にも恵まれ、霞ヶ関ビルでの表彰式と天皇、皇后両陛下への拝謁・皇居参観に、感激も冷めやらぬまま表彰状と記念品をおみやげに帰新したところで

また、直後十月二十八日・二十九日の当公民館文化祭作

品展示会の会場に、早速賞状と記念品の盾を陳列して、地区住民や共催した利用団体連絡協議会の皆さんと喜びを分かち合うことができ、地区の皆さんの事業への積極的な協力があってこそその受賞

と改めて感謝している次第です。

新潟市北地区には、当館の他に2カ所の分館が市の連絡所との複合施設で設置されており、こちらは事業があるときに当館から職員が出向く形で運営しています。

職員五人で、自主事業として「家庭教育学級」、「学校五日制対応事業」、「地域学」を中心とした講座の企画運営を展開していますが、運営審議会委員・地域スタッフ・学生スタッフ（新潟医療福祉大学の学生）にも、企画の段階から参画をいただいで進めているのが当地区の特長と言えます。特に「地域学」においては、平成十四年に「北新潟地域づくり学会」を立ち上げ、ひと・まち・自然・地域交通を切り

口に、地域活性化を検証する研究と同時に研究発表会、自然を楽しむ会、駅伝大会、地元商店街との共催によるうまいもの市などのPR活動を展開しており、会員が自主的に活動できる団体に育ってくれ

たと自負しています。今後とも、地域の住民が気軽に学習できる地域づくり・仲間づくりの拠点を目指して職員一同頑張りたいと気持ちを引き締め、関係の皆様へのお礼のあいさついたします。

第2回関東甲信越静公民館連絡協議会理事会・研修会の開催

1 日時 平成18年11月17日(金) 11:00~15:00 30人参加

2 会場 都市センターホテル6階 603会議室
所在地 東京都千代田区平河町2-4-1

3 日程

・11:00~11:10 開会・あいさつ 会長

・11:10~12:00 研修会

講演

テーマ 「人と人をつなぐ地域づくり」

講師 文部科学省地域づくり支援室 室長 高橋平治氏

〈12:00~13:00 昼食〉

・13:00~14:55 理事会

協議

(1)第47回関東甲信越静公民館研究大会(群馬大会)の反省について

(2)第48回関東甲信越静公民館研究大会(栃木大会)について

(3)第49回関東甲信越静公民館研究大会(千葉大会)について

情報交換

・14:55~15:00 閉会・あいさつ 副会長

視点

出雲崎妻入りの街並景観保全の推進

出雲崎町教育委員会教育長

(兼公民館長) 佐藤 亨



「出雲崎にしえ人のふみにけむ。」(御風)
 良寛誕生の地でもあり、多くの文人墨客が行き交った歴史と自然があふれ、「妻入り」のある当町海岸部が平成八年、国の「歴史国道」及び県の「ふるさと新潟の顔づくり事業」の景観形成地区に指定されました。

当町「妻入り」の街並は、長さからして日本有数と評価されていますが、人口減少は否めず、街並も空家、空地が見られております。

そのような状況下、「出雲

崎妻入りの街並推進協議会」
 「街並活性化研究会」のサークル活動において、歴史ある街並景観の保全、創造等再生を図る活動があり、教育委員会、公民館では助成や「街並ギャラリー」(東京芸大生作品展示)等の事業への惜しみない協力を毎年行っているところでは、「空家・空地情報バンク」を立ち上げ、そして「北国街道妻入り会館」が間近に竣工予定であり、街並活性化に拍車がかかればと期待しております。

H O T N E W S 掲 示 板

平成19年度公民館関係の諸大会

- 第58回新潟県公民館大会
 - ・期 日 平成19年7月20日(金)
 - ・会 場 村上市民ふれあいセンター
 - ・内 容 基調講演 事例報告
 - ・参加費 1,500円
(10月26日理事会決定)
昼食代は、別途800円(お茶付)で申し受けの予定
 - ・準備会 平成18年12月19日(火)
新潟地域振興局庁舎201号室
- 第30回全国公民館研究集会
兼第48回関東甲信越静公民館研究大会
 - ・期 日 平成19年10月11日(木)
12日(金)
 - ・会 場 宇都宮市文化会館等
 - ・内 容 10分科会 全体会
記念講演
 - ・参加費 4,000円
 - ・本県担当分科会(予定)
第4分科会「高齢者教育」

ひろば

生涯学習と公民館

新潟市西地区公民館運営審議会委員 清水 昭

とっております。

生涯学習は、特定の年代の人たちを対象としたものではないのですが、高齢化社会の進展や定年退職などに伴う第二の人生が求められるようになって、更にその必要度が増えてきていることは確かです。

生活に生き甲斐を保つために、趣味や社会連帯などを通して、さまざまな人々との結びつきや協同・協力によって、自らが社会の一員としての存在を自覚できる毎日は大変なことであると思います。

その生涯学習を手助けしたり、推進することも公民館の仕事の一つであると思えば、どのような学習が、どうすれば可能か。公民館のサークルをはじめ、各種の団体等々がありますので、広く関係機関の情報を提供できる体制作りが必要となりましょう。

公民館が抱え込むのではなく、趣旨に合う方向で情報を与えて導くようにすることも大切な要件でありましょう。

ただ、趣味や協同社会に生きようとしながら、とかく過去を引きずって、ひとりよがりの傾向に陥る例があることは、誠に残念なこと



「権」糸魚川展

人権と共生の世紀

たり文部科学省の研究指定を受け、「互いの立場を尊重し、思いやる心の育成～個性を認め合い、支え合う人間関係づくりを通して～」をテーマとして人権教育研究を行い、成果を上げました。

そして、この糸魚川展を市内の児童生徒が差別の現実を学ぶ絶好の機会としてとらえる中、全小学校18校の5年生以上約850人、全中学校5校の全学年約1,300人、さらに糸魚川高校、糸魚川白嶺高校の全学年約1,200人が来場したほか、中越地区の小・中学校からも300人弱の児童生徒が見学を訪れるなど、過去の人権展においても例を見ない児童生徒の見学数となりました。



熱心に説明を聞く中学生

このように児童生徒が多く来場することとなったため、人権問題、同和問題についての理解がより深まるよう新たにリーフレットを作成して事前に配付したほか、パネルの解説文にもできるだけルビを振るなど、小・中学生でも理解しやすい内容となるよう配慮がなされ、また例年よりも解説員が多く配置され、児童生徒への対応にあたりました。

社会教育の面でも、人権教育と人権啓発をさらに進めるための貴重な機会としてとらえ、市の広報紙をはじめ、地区公民館が発行する公民館だよりなどを活用して、記念講演会やパネル展のPRに努めた結果、祝日、土日でも大勢の市民が訪れ、熱心にパネル展を見学しました。

4. 人権基本指針を策定中

糸魚川市では、これまでそれぞれの分野で個別に進められてきた人権施策を成果のあるものにする

ため、今年度、人権施策の基本的方向を明らかにする「糸魚川市人権教育・啓発推進基本指針」の策定に着手しており、有識者などからなる策定委員会や庁内の委員会で審議を重ねています。



市民会館ロビーで説明を受ける児童

この基本指針は、国の「人権教育・啓発に関する基本計画」や、新潟県の「人権教育・啓発推進基本指針」策定などの動向を受け、すべての市民が、互いの人権を尊重しあう社会を実現するために策定するもので、国・県の人権に関する指針や計画にそって、当市の現状に即した人権教育及び人権啓発の推進、分野別の人権施策の推進など、当市が取り組むべき人権教育・啓発の基本的方向を明らかにするものです。

社会教育における人権教育の推進については、施策の基本方針として、①教育・啓発活動の推進、②家庭や地域における人権教育の支援の2つを掲げ、広報、教育資料、視聴覚教材を積極的に活用した、より効果的な人権教育・啓発の推進と、子育て学習や、家庭教育関係の講座等において、親子が共に人権感覚を身につけられるような学習機会の提供と充実、さらには相談体制の整備充実の拡充を進めることとしています。

また、地区公民館など社会教育施設での様々な学習の場において、地域の状況に応じた、市民に対する学習機会や情報の提供、指導者の育成支援を推進しながら、市民の主体的な人権教育・啓発活動を支援することとしています。

平成18年度は「いのち・愛・人権」糸魚川展の開催と合わせ、人権教育、啓発の面で大きな一歩を踏み出した年となりました。

特集

「いのち・愛・人」

—きりひらこう!

糸魚川市教育委員会生涯学習課

1. 糸魚川地域では初の開催

11月21日から27日までの1週間、糸魚川市で「いのち・愛・人権」糸魚川展が開催されました。

「いのち・愛・人権」展は、1989年(平成元年)に新発田市において開催されて以来、今回で18回目となる歴史を持っており、県内の人権、同和問題の解消に向けた契機となる事業として、大きな役割を果たしてきていることはご存じのとおりですが、市町合併前の糸魚川、西頸城地域を含め、この地域では初の開催となりました。

糸魚川展は、これまで同様に開催地における糸魚川展実行委員会のほか、新潟県実行委員会、新潟県人権・同和センター、部落解放同盟新潟県連合会の4団体が主催し、新潟県、新潟県教育委員会をはじめ、県内の市町村及び教育委員会、宗教団体、労働団体など100を超える団体が参加して準備、運営に当たっており、今年度当初から打合せ会議、結成総会、事務局会議、パネル制作専門委員会などを開きながら開催に臨んできました。



村山 陽さんが描いた
糸魚川展のイメージ画

今世紀は人権の世紀といわれ、あらゆる差別の撤廃と、お互いの人権を尊重し合う社会の実現が強く求められており、このような状況の中で人権展が当市において開催されたことは、部落差別はもとより、昨今大きな社会問題になっているいじめの問題、虐待、障がい者、女性、外国人に対する差別や偏見など、より多くの市民に理解と認識を深めるきっかけとなり、差別の撤廃、人権意識

の向上につながったものと思われます。



市役所市民ホールでの解説の様子

2. 沖浦名誉教授を招いての記念講演会

式典は、初日の午後1時から行われた糸魚川市役所市民ホールでのテープカットで幕を開けた後、パネル制作専門委員長の佐藤泰治さんが、江戸時代から続いた県内、上越地域の差別の実態や事件、また被差別部落が受け継いできた伝統芸能や工芸など、展示されているパネルについて詳しく解説されました。

その後、会場を市民会館に移し、オープニングセレモニーと記念講演会が開催され、講演会では、全国大学同和研究協議会顧問を務め、人権問題に詳しい桃山学院大学の沖浦和光名誉教授が、千席の大ホールがほぼ満席となった会場に向けて、2時間近くにわたり「被差別民の文化と芸能～日本文化史における賤民～」をテーマに熱弁。市内の糸魚川高校と糸魚川白嶺高校の3年生約400人が真剣な面持ちで話を聞く中、能・狂言や歌舞伎、人形浄瑠璃、漫才など日本を代表する芸能を創造してきた被差別民が作り出した文化を見つめ、新しい人権のまち、糸魚川をつくり出してほしい、と呼びかけました。

3. 市内の小・中学校の5年生以上が見学

糸魚川市教育委員会では、教職員や保護者、行政関係者を対象に、同和教育研修会や現地研修会等を開催するなど、同和教育を中核にすえた人権教育の推進に力を入れているところですが、市内の青海小学校では、平成16、17年度の2年間にわ

実践記録

105

シリーズ

町村合併「ふるさと学習館」を中核に

阿賀町公民館三川分館 主任 西川 利之

1. 合併の課題

町村合併後に生じた大きな問題として、旧町村間における生涯学習の推進方法に大きな違いがありました。旧三川村の生涯学習は集落の公民館主導型で、他の町村は中央公民館型生涯学習です。双方ともに一長一短でしたが、将来の統合のことを考え中央公民館型へととなりました。このことで、阿賀町公民館三川分館では、地域の活力（集落毎の公民館活動）の良さを残しながら、新たに町公民館主導型の生涯学習を推進していく課題が発生しました。



「旧小学校（廃校）→ふるさと学習館」、「校長先生→館長先生」名前は違っても、信頼のおける校長先生が館長を勤めることで、集まってくる児童・保護者には安心して講座を受けられる環境が整ったといえます。

2. 合併後の公民館事業をスムーズに移行させるための問題点

①集落毎の公民館活動へ町の財政支援が出来なくなったこと。（合併後は他分館との整合性にも鑑み、財政的な支援は無しとなった。）②一ヶ所に集める公民館講座に馴染んでいないため、新たな取り組みの必要があった。③小学生を対象とした講座が定着しておらず、送り迎えの問題もあった。④町村合併と同時に廃校となった旧三川小学校の後利用。



しかし、運営面の問題で当然のことながら、児童が学校にいる時間中は、誰も「ふるさと学習館」に來ないことでした。そこで、平日の午後、活動の活性化を図るため、一般向け講座の開設を考えるが「何をすれば人が集まるか？」も難しい問題でした。幸いにも、本館館長には版画といった特技があり、公民館講座で版画教室を開催することになりました。思ったとおり参加者の心を掴み、今では、公民館講座から自主活動にまで移行しつつある状況となりました。

次に、最近人気の絵手紙を始めることにしました。これも、近くの人々が集まり、まずまずの感触でした。

その次はパッチワーク教室…と、このまま少しずつ利用者を増やすよう現在検討中であります。

3. 課題への取り組み

①町全体の調整作業

課題を克服するための最初の取り組みは、各分館（旧町村）の調整であった。講座受講料の問題、各集落の公民館への関わり方など、新年度に入り町公民館（本館）の担当は、各分館の担当を集め調整に大変苦慮していました。

これらの努力があって、4月からは早速、本館・分館ミーティング会議が月1回開催され、各分館行事の打ち合せ・協力調整等を会議で行うなど、新しい町の公民館は常に連絡調整が図られ、スムーズに一体化を成すことができました。

②ふるさと学習館への取り組み

三川分館では、他の分館との連絡調整を図りながら、分館独自の課題克服のため、児童を中心とした公民館活動の強化を図りました。その目玉が「ふる

4. 成果と課題

成果としては、各集落の公民館が実施する活動、三川分館が実施する活動、町公民館（本館）が実施する活動と各団体の序列、活動の内容が整理され、三川分館独自の課題でもあった「児童向け講座の定着」、「一般向け講座の活性化」にある程度の目処がついてきました。何よりも廃校が活用され、地域の活力を損なうことがなくなったことが、とても大きな成果であったと思います。

残された課題としては、集落毎の公民館組織を維持する必要があるものの、各集落において人材育成が思いのほか進まず、活動が停滞ぎみであることです。

そこで、来年度には、人材育成を図るため「ボランティア養成講座」等を公民館全体で取り組む予定です。

趣味と学習

柳墨友の会

定年退職後、先輩の展覧会で、水墨の素晴らしさに心を惹かれました。

学習と仕事を両立させることが出来るかどうか、些か心配でしたが、決心をして入会させて貰いました。

墨一色で表現する絵にも奥が深く、濃淡、運筆と講師の親切な指導を仰ぎ乍ら、一喜一憂しています。

そして、学習の成果を地域の展覧会にも出品させて頂き、皆様との交流を深めています。



これからも、月二回の学習日には無欠席で、趣味を続けて行きたいと思っておりますと共に、生涯学習の場を設けて下さった方々に感謝しております。

木枯らしや

いそいそと行く学習日

柏崎市・水墨画コース

清水信郎 記



みんなが元気で
楽しめるサークル活動

スポーツダンスサークル

私達の町公民館文化サークル協議会には、八つのサークルがありますが、私はスポーツダンスに所属しています。私達の活動の目的は、ダンスの技能(正しく美しく)の



向上は勿論ですが、自分自身の健康の保持や、会員相互の交流も大事にして活動しています。

会員は二十四人で、毎週一回、講師をお願いして活動しています。皆が熱心に励み合って踊っているのです、寒い冬でも汗だくになります。

一番の楽しみは、年三回開催するダンスパーティーですが、サークル内で実施したり、他サークルとの交流を行ったりしています。

ボランティア活動として、ケアハウスや老人会等へ訪問して、ダンスを披露しています。

出雲崎町

曾根良子 記

魚沼市には6地区公民館があり、堀之内公民館は、中央公民館も兼ねております。ここに勤務する彼は、6地区の公民館を東ね、地域の将来像を描きながら日々燃えております。

公民館主事としてベテランの彼は、「ミッチー」の愛称で皆に親しまれつつも、溢れんばかりの知識を生かして、後輩職員へ耳が痛くなるようなアドバイスを忘れること

魚沼市堀之内公民館

主事 佐藤 充さん



はありません。

そして、剣道を愛する武道家であるとともに、市役所のサッカー部に所属し、GKを勤める要の選手でもあります。ゴールに迫るボールは絶対に後ろに逃さない、「俺に任せて安心してプレーしろ!」的な存在です。「ミッチー! 皆が頼りにしますよ! (^_^)」

(魚沼市堀之内公民館 主事 関 祐樹 記)

素顔
拝見

荒川町公民館のさわやか元気印、伊藤廣恵さん。

平成15年から社会教育指導員として、高齢者大学「たかつほ大学」などを担当しています。

講座は、伊藤さんの明るい性格もあって100人を超える人気ぶりです。日頃は、コーディネイト役として新しい企画を立案し、ときには自ら講師となり、レクリエーションやストレッチ体操などを楽しく指導してくれています。

平成17年度からは、「地域

荒川町公民館

社会教育指導員 伊藤 廣恵さん



子ども教室」のスタッフとして、荒川町で流行中の「ドッチビー」などを指導してくださり、子どもたちにも大人気です。

最近、生まれたばかりの孫の世話をするのが楽しみ、と言いつつ、子育てならぬ「孫育て」で寝不足の様子です。ハードな毎日に体調を崩してしまうこともあり、心配になります。

これからは、自分の身体も大切にして、いつまでも元気ハツラツで、活躍していただきたいと思ひます。

(荒川町教育委員会生涯学習課 岸 宗光 記)

文芸しばた第三十二号が恵送されて参りました。巻頭に、「文芸が生涯学習の分野に欠かせないものである」とは、創作活動が自己を静かに見つめるといふ心を醸成する機会となり、加えて健康となお一層の「同心偕行」の輪の拡がりを得ていることを見ても、自明でありましょう。」と、土田眞照館長は述べておられます。



内容は、詩、短歌、俳句、川柳、随筆、小説、童話、コントで構成されていますが、私は、

恵贈資料紹介 文芸しばた第三十二号

文芸しばた運営委員会
新発田市中央公民館

「掖河収容所」の追真に迫る内容に圧倒されました。

読み易さでは、各部門毎に運営委員の方々が、それぞれ講評しておられることで、作り手の方も今後参考になるのではないのでしょうか。
知人、親類縁者が執筆名の中に見出すことができ、親近感を覚ええました。

いじめに関する 「文部科学大臣からのお願い」について

平成18年11月22日

新潟県教育庁生涯学習推進課長

日ごろ、青少年の健全育成などの社会全体で子どもをはぐくむ事業について、御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、昨今いじめを受けたことにより児童生徒が自ら命を絶つという痛ましい事件が依然として発生しており、誠に悼ましいことです。このような状況を踏まえて、文部科学省から、別紙のような「文部科学大臣からのお願い」が発表されましたのでお知らせします。

貴職におかれましても、この趣旨について貴関係者へ周知を図るよう特段の御配慮をお願いします。

文部科学大臣からのお願い

お父さん、お母さん、ご家族の皆さん、学校や塾の先生、スポーツ指導者、地域のみなさんへ

このところ「いじめ」による自殺が続き、まことに痛ましい限りです。いじめられている子どもにもプライドがあり、いじめの事実をなかなか保護者等に訴えられないとも言われます。

一つしかない生命。その誕生を慶び、胸に抱きとった生命。無限の可能性を持つ子どもたちを大切に育てたいものです。子どもの示す小さな変化をみつけるためにも、毎日少しでも言葉をかけ、子どもとの対話をして下さい。

子どもの心の中に自殺の連鎖を生じさせぬよう、連絡しあい、子どもの生命を護る責任をお互いに再確認したいものです。

平成18年11月17日

文部科学大臣 伊吹 文明



Information 「ニュートリノ展」

- 1 特別展名 「ニュートリノ展」
- 2 開催趣旨 略
- 3 開催期間 平成18年12月16日(土)～12月28日(木) 休館日(12月18、19、25日)を除く10日間
- 4 主催 新潟県立自然科学館・新潟大学理学部・東京大学宇宙線研究所
- 5 会場 新潟県立自然科学館 特別展示室(226㎡)、エントランスホール(100㎡)
- 6 展示構成 ①パネル・模型等 ②ミニ講演(検討中) パワーポイントを用いて実験の裏話等を10分程度

展示品名	展示形態	備考
スーパーカミオカンデ用光電子増倍管	実物	(背景あり)
スーパーカミオカンデ用光電子増倍管防塵カバー	実物	
飛騨片麻岩	実物	
カムランド用光電子増倍管	実物	
カムランド用シンチレータ	実物	
アイスキューブ用光電子増倍管	実物	(背景あり)
3大ニュートリノ実験の比較	パネル	
スーパーカミオカンデ精密模型	模型	
カミオカンデ精密模型	模型	
地下実験場のある「池の山」の樹立	模型	
「池の山」等高線精密立体地図	模型	
「T2K」の人工ニュートリノ発射装置	模型	
ピースで学ぶ枝子の世界	ハンズオン	
子供向け解説アニメ「スーパーカミオカンデを知ろう」	PC	タッチパネル式

子供向け解説アニメ「ニュートリノを知ろう」	PC	タッチパネル式
「科学者になってみよう」1		幼児向け
「科学者になってみよう」2	実物	小学生向け
「科学者になってみよう」3	PC	シミュレーション
スーパーカミオカンデ建設記録映像	DVD	
「スーパーカミオカンデができるまで」	パネル	
ニュートリノ写真展	写真パネル	
原子核ニュートリノ実験(KASKA/D-Chooz)	パネル	
ニュートリノ振動のイメージ	模型	
イベントディスプレイ(検討中)	PC	
ニュートリノ研究の意義	パネル	

※上記内容の他に展示物の追加を検討中。

県立自然科学館 電話 (025) 283-3331 FAX (025) 283-3336

あ と が き

第57回県公民館大会の記録報告集が、現地小千谷市公民館のご協力により、11月中旬刊行することができました。

また、大会運営費の方も、

実行委員会各位のご尽力により、何とかトントンで締められそうに喜んでおります。それでは皆様方、良い年をお迎えください。

(鈴木 記)